



〒892-0841 鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島司教区
電話099(226)5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行人 末吉卓也
1部60円年間7共1100円

道標

04年10月10日～05年10月29日
「聖体の年」
【教区目標】
教会の教えを
学び直しましょう

聖体への信仰を新たにし強めよう

「聖体年実施要領」の作成

教皇は、今年六月十日、「キリストの聖体」の祭日のミサで、今年の十月十日から一年間を「聖体の年」として世界の教会で祝うと発表した。これを受けて糸永司教は、このほど教区における「聖体年実施要領」を作成し、教区内の司教に示した。このなかで司教は、聖体についての学習や聖体賛美式、聖体礼拝、主日のミサにあずかれない人への聖体を拝領させることなどを通して、聖体によって小教区を生かし、強めるためのあらゆる努力をするよう求めている。

「聖体の年」の実施について

鹿児島教区司教 糸永真一

教皇ヨハネ・パウロ二世は、去る六月十日、ローマ教区のカテドラルであるラテラノの聖ヨハネ大聖堂における「キリストの聖体」の祭日のミサで、この秋から一年間を「聖体の年」とし、世界の教会で祝うと発表されました。期間は、メ

たその実施についても計画がありと存じますが、念のため、次のことを鹿児島教区における「聖体年実施要領」として掲げ、ご参考に供したいと思えます。

- 一、教会という共同体は聖体によって生かされ、強められています。この一年、何はさておき、聖体によって小教区を生かし、強めるよう、あらゆる努力を集中する。
- 二、聖体に関する教会の教えについて、信者ととも学ぶ機会を設ける。
- 三、主日の説教でしばしば聖体を取り上げ、少なくとも説教の結びに聖体を結びつける。
- 四、適当な機会に「聖体賛美式」や「聖体礼拝」を繰り返し実施する。
- 五、主日のミサの続きとして、ミサにあずかれない

11月23日に典礼研修会開催

ミサと日常生活テーマに

教区典礼委員会(委員長、小川靖忠神父)は、十月七日(木)教区本部で、十一月開催される教区典礼研修会のテーマや内容について検討した。

六、その他
神父様がたのご協力に感謝しつつ、「聖体の年」の成功を祈ります。

菊池司教着座

新潟教区

九月二十日(月)、佐藤敬一司教の後任として新潟教区司教に任命された菊池功司教(四十五歳)の司教叙階式が、新潟清心女子中学校・高等学校体育館で行われた。

訃報

バルビニ神父
かつて大隅、種子島の宣教師に尽力したパウロ・バルビニ神父(ザベリオ宣教師)が、九月二十三日(木)ガンのため入院先のバルマの本部病院で帰天した。八十六歳だった。バルビニ神父は一九一

入試要項発表

福岡大神学院
福岡サン・スルピス大神学院(福岡市城南区)は、来年度の入試要項を発表した。出願資格、入試日程は次のとおり。

定例司教集会

十月十九日(火)、教区本部会議室で定例司教集会(コンベンツス)が開かれ、聖体の年の実施方法を分かち合い、また鹿児島教区司教昇格の教皇書簡を学んだ。

川内殉教祭に向かつて

川内教会主任司教 ヨルダン・ハンマ

今年六月二十一日に日本殉教者列福調査特別委員会の委員長溝部司教様の指導で教区担当者会議がカトリック中央協議会の日本カトリック会館で開催されました。九人の教区担当者のうち八人が出席しました。

と教皇庁による二つのレベルの調査が必要とされます。百八十八殉教者に関しては、国内についての調査は終了しています。必要ですが、一般の信者にとつ

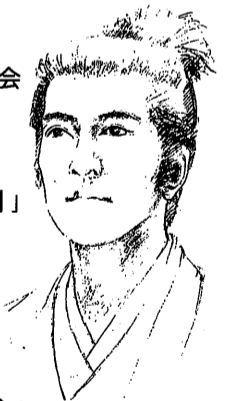
今年も(十一月十四日)講演
熱意についてのメッセージをもたせて、そしてミサで殉教者によって現れた神の恵みと力のために感謝いたしましょう。

川内殉教祭

11月14日(日)

場所 川内カトリック教会

- 1時 講演
「ドミニコ会とレオ税所七右衛門」
講師 岡本哲男 神父
- 2時 ミサ
- 3時 巡礼
京泊ロザリオの丘へ



薩摩の殉教祭
レオ税所七右衛門

お問い合わせ
川内カトリック教会 TEL 0996-22-3738
FAX 0996-22-4654

「神の似姿」としての人間

聖書の人間理解 (3)

竹山 昭

三重の関係性の中に
創世記一・1―二・4
の創造物語は人間の創造を
描くに当たってこう述べて
いる。

「神はご自分にかたどつて人を創造された。」

男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。

「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の土を這う生き物をすべて支配させよう」(二の27―28)

人間は、何よりもまず、神のかたどりと創られた存在、「神の似姿である」のである存在と言われている。これが、その後もキリスト教に受け継がれて、聖書の人間観の基本となる。

しかし直ちに「男と女に創造された」と述べられるように、男も女も一人ひとりが神の似姿であるというだけではなく、男と女つまり自分とは別の人間との関わりの中に創られていることを窺わせる。さらには人間以外の生き物を支配する使命を与えられること

によって、人間は他の存在、広く考えれば人間を取り巻く自然との関わりを避けることはできない。

この三重の関係性はもう一つの創造物語(二・4前半―25)にも示されている。この部分はダビデ・ソロモン時代(前十世紀頃)

のもので、先の創造物語よりも古く、それだけに先の場合に比べて、素朴な書き方を用いている。とはいえず、基本的な考えに根本的な違いはない。

人間創造は「主なる神は土の塵で人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者になった」(二・7)と述べられる。先に「神にかたどつて」創られたとの考えが、ここでは人間が「神から命を受けた者」として表現されている。その人間は「エデンの園に住まわせ、人がそこを耕し、守るようになされた」(同16)。

人が他の生き物に名を付けるが、それは先の物語の「支配する」に相当する。そして主なる神は「人が独りであるのは良くない。彼に合う助ける者を創ろう」と、女を創造して与えるのである(同18―25)。

このように、聖書は人間を単独者としてではなく、神と他の人々と自然との関係性のうちにあるものとしてとらえるのである。

「神の似姿」である人間、三重の関係性の根本は、神との関わりの中に置かれていなければならない。そしてここに現代人が言う「誰も侵すことのできない人間の尊厳」の根拠もある。

近代以降、自然も人間も神との関係から切り離す

竹山 昭

ことで自然科学を発達させてきた。人間を科学的な探求の対象に置き、詳しく調べてきた結果、驚くほどの知識を得たし、その知識を技術として活用してきた。

現在では遺伝子レベルで人間の命の仕組みを解明しようとしている。しかしながら、人間をあらゆる関係から切り離し、詳細に調べて細部にわたる知識を得たからといって、それで果して人間を本当に知ったことになるのだろうか。

確かに現代では人間の尊厳を強調し、基本的人権を擁護するのに熱心である。それなら、人間の尊厳や基本的人権の根拠はどこにあると言おうのだろうか。この問いを追及し続けられ、現代の人権思想がいかに根拠を欠くものであるかが暴露されよう。

結局その絶対的な根拠

を見出すことはできない。その結果、「人間の命は皆平等だから」「人間の命は限りなく尊いから」などと言うにとどまろう。しかしそれでは十分な答えになるまい。それを裏付けるかのよう

に、人間の尊厳を言い、命の尊さをうたいながら、いざとなれば、人間の尊厳を比べて評価し、ある人が他の人の尊厳を踏みに

じる理由を持ちだすことになる。「ひとりの命は地球よりも重い」と言いながら、命の価値を比べて、一方の命のために他の命を抹殺することを正当化すること

になってしまふ。聖書は「神の似姿」として創られたこと、すなわち神との関わりの中に人間の尊厳の根拠を置き、命の尊さを認める。そのよう

である以上、人間はどのような理由であれ、他の人の尊厳を侵し、命を抹殺する理由をもたない。人間だけを見ていても人間を理解できないのだ。初めから神との関わりの中におかれてい

る人間なのだから。

死者の月

キリスト者は、ユダヤ教の伝統を受け継いで(二)マカバイ記二・一四三―

四三)死者のために祈りをささげます。十一月は、典礼暦年の最後の月ですが、カトリック教会では、この月、とくに死者のために祈ります。教会はキリストの生きた神秘体ですが、これに属するのは、この地上を生きわたしたちだけでありません。死後、神の栄光を受け、永遠の幸福(天国)のうちにいる人と、清めを受けている(煉獄(れんごく))人々もいます。生者と死者とは異なつた状態におかれていますが、同じ「キリストのからだ」に属しています。

諸聖人の祭日(十一月一日)には、天国に召されていながら特別な日を定められていない全ての聖人たちをまとめて盛大に祝います。天の栄光のうちに

ある諸聖人に思いをはせ、その取次ぎを願うことによつて永遠の命への希望に生

きるよう地上の教会の信者たちを励まします。死者の日(二日)には、すべての死者のために祈ります。仏教などでは故人が好んでいた飲食物などを供えていた飲食物などを供える習慣があります。故人に対する尊敬と愛情の表現としてそれらを供えてもよいでしょう。しかし、カトリックの教えでは、祈り・免償(めんしょう)すにゆるされた罪に伴う有限の罰の免除・愛のわざが死者のために祈ります。

先祖や両親が他宗教の場合、教会の祈りと儀式によつて自分の先祖と交わることができません。しかし、事情によつては、他宗教の様式で冥福を祈つてもよく、また、親類などのお付き合いの上、法事など他宗教の様式でしたほうが良い場合があります。そのような祈りについては、キリスト教的な愛のわざになります。

【参考】カトリック中央協議会「祖先と死者についてのカトリックの手引」(二五〇頁)

<KABAYAN SEKSIYON>

ANG SAKRAMENTO NG PAGKOMPISAL

Ang pagninilay-nilayan natin ay ang tungkol sa sakramento ng Pagkompisal. Ngayon sa pamamagitan ng mga sakramento, ang tao ay tumatanggap ng bagong buhay ni Cristo. Dinadala pa natin ngayon ang buhay na ito "sa sisidlang-putik" at nanatiling sa Diyos natatago ang buhay kasama ni Cristo. Tayo ay nasa "makalupang-tirahan"pa, na makakaranas ng paghihirap, pagkakasakit at kamatayan. Itong bagong buhay bilang mga anak ng Diyos ay pwedeng papanghinain at malamang mawala dahil sa kasalanan. Ang Panginoon Jesucristo, manggagamot ng ating mga kaluluwa at katawan, na siyang nagpatawad ng kasalanan at pinagaling ang sakit ng paralitiko. Hanggang sa ngayon sa pamamagitan ng kapangyarihan ng Espiritu Santo, patuloy ang paggagamot ni Cristo at pagliligtas sa tao sa pama magitan ng Simbahan at ng mga sakramento. Kaya ito ang layunin ng sakramentong Pagkompisal. Ano ang tawag sa sakramentong ito? Itoy tinatawag na sakramento ng pagbabalik-loob, dahil itoy nagiging sakramento sa presensiya ni Cristo sa pagtawag ng pagbalik-loob, na ito ang unang hakbang ng pagbalik sa Ama ng lahat ng taong naligaw ng landas dahil sa kasalanan. Tinatawag din itong sakramento ng pagkompisal, dahil nagkokompisal tayo ng ating mga kasalanan sa pari, na pinaka-importante ng elemento ng sakramentong ito. Kinikilala natin ang ating pagiging makasalanan at tayo ay nagpupuri sa kabanalan ng Diyos at ng kanyang awa sa taong makasalanan. Tinatawag din itong sakramento ng pagpatawad. Sa pamamagitan ng pagpatawad ng Pari, ibinibigay ng Diyos sa nagsisisi ang pagpatawad at kapayapaan. Kung tayo ay may kasalanan, tayo ay nagiging alipin at nawawala ang buhay kagalakan at kapayapaan. Kaya huwag tayong mag-atubili at matayak na magbalik-loob sa Diyos dahil lubusang tayong minamahal at handa niya tayong patawarin ng ating mga kasalanan. At ibibigay sa atin ang bagong buhay diyan kay Cristo. Dahil ang Diyos ay pag-ibig.

Fr. Dino A. Orolfo

tel/fax 09972-2-0423 keitai: 090-2085-1094

11月

死者の月―亡くなった多くの先達たちのために祈りましょう

【十字架の使徒会祈りの意向】 司祭の召命

1日(月) 諸聖人

2日(火) 死者の日

▼第十二回教区評議会・カテドラル・18時30分

3日(水) 平秀應修道士命日(一九九四年)

3日(水) 母間教会献堂記念日(一九五九年)

7日(日) 年間第三十一主日

▼司教沖永良部教会訪問(宣教奉仕者選任式)

9日(火) ラテラン教会の献堂

▼メニヒ神父霊名(テヨドル)

10日(水) 教区本部会議・教区本部・10時

14日(日) 年間第三十三主日

▼川内殉教祭・川内教会・13時

16日(火) 司祭評議会・教区本部・10時

20日(土) 三木巖神父命日(二〇〇〇年)

21日(日) 王であるキリスト

▼聖書週間(21―28日まで)

神の愛を知り、神の心を受け取るために、わたしたちは新約聖書と旧約聖書を神のことばとして読み、大切にします。「聖書週間」は、すべての人、とくに信徒が、この聖書に「より強い関心を持ち、親しみ、神の心に生きる」ようになるための週間です。

各教区では、聖書への関心を高め、より親しむために、講演会、研修会、展示会などの催しが計画されます。このような催しに進んで参加するとともに、自分でも積極的に聖書に近づきましょう。たとえば、毎日欠かさず聖書を一章ずつ読む方法や、ミサにあずかれないまでも、ミサの聖書朗読の当日分を毎日読む方法も勧められています。

23日(火) 典礼研修会・カテドラル・10時―16時

26日(金) 鹿児島純心女子大学十周年記念式典・14時

28日(日) 待降節第一主日

30日(火) 聖アンデレ使徒

12月

3日(金) 聖フランシスコ・ザビエル司祭

5日(日) 召命祈願ミサ

ザビエルの足跡を辿って

青年有志が伊集院城山公園へ徒歩巡礼

秋晴れの空の下、青年たちがザビエルに倣って約二十四キロの道を巡礼した。

聖フランシスコ・ザビエルは九月二十九日の聖ミカエルの祝日に当時の領主、島津貴久に会いに行き、薩摩での宣教の許可をもら



城山公園までもう一踏ん張り頑張りま〜す

つたといわれている。鹿児島教区の青年たちはこれを記念して、九月二十六日(日)に、ザビエル教会から会見が行われた伊集院町の城山公園までの約二十四キロの道を歩いて巡礼し、ミサをささげた。朝八時に出発した

徒歩巡礼には十人が参加し、日に照られ汗を流しながらも、ザビエルの苦勞を思い起こし、祈ったり聖歌を歌ったりして楽しく歩いた。会見の地に到着後約二十人が集い、ザビエルのとりなしを願いながら共にミサを

喜びいっぱい 聖信の阿久根教会

十月十日(日)に阿久根教会(主任・山口重義神父)を糸永司教が訪問し三人の信徒に聖信の秘跡が授けられた。

主任司教をはじめ信徒一同が久々の司教訪問を待ちわびていた阿久根教会では、三人の受堅者と共に六十人ほどの信徒がミサに参列した。この日聖信の秘跡を受けた信徒の一人、黒崎

エダさん(八十三歳)は八月に洗礼を受けたが、司教から聖信を受けたことでこの日まで準備をし、司教訪問を待ったという。

九時からのミサに予定より早く到着した司教だったが、信徒たちは思いがけなく司教と話をする機会が増えて喜んでた。ミサのあとにも、食事を共にとりながら交わりを深めていた。受堅者には司教から記念のカードと冊子「信徒のための信仰生活指針」が贈られた。

キリスト者の生き方を学ぶ

鹿児島連合壮年会が黙想会

鹿児島カトリック連合壮年会(佐々木正光会長)は十月十六日(土)と十七日(日)、マリア山荘で黙想会を開催した。

指導は竹山昭師(教区本部)。テーマに「キリスト者として生きるには」を選んだのは、社会でキリスト者

参加した二田奈津子さんは、「あきらめようとしたけど、ザビエル様もこんな景色を見ながら歩いたのかなーと思いつきながら歩いていました。もっと謙遜の想いを大切に、と言いつけて歩きまわりました。」と語った。

講師は、いついかなるときでもキリスト者であることを置いて生きることはできないこと、キリスト者の特徴、そこから、命の源である方に真っ直ぐ向かい合う時(祈り)が不可欠と

信仰養成委アンケート調査追加報告

小教区での「教会の教え」の実態

本紙先月号でお知らせした信仰養成委員会によるアンケートで、本紙掲載後に回答があったもの。

九月から、ミサ後に実施していく予定の「カトリック教会の教え」を一家に一冊持つようにミサ後の案内で内容を教えるが啓蒙している。

主任司教の入院等があり、十月の第一日曜日のミサ後から始める予定。毎月第一日曜日の午後二回、午前と午後

ミサの説教の中や、ミサ後に話し合いの形で時々行っている。

加世田 午前と午後、午後二回、午後二回に分けて実施し

午後二回、午前と午後、午後二回に分けて実施し

午後二回、午前と午後、午後二回に分けて実施し

午後二回、午前と午後、午後二回に分けて実施し

午後二回、午前と午後、午後二回に分けて実施し

短信

▼コスモス会が十周年 玉里教会(サンタマリア神父)の高齢者の会が十周年を迎え、十月十三日(水)記念ミサをささげた。

二日目には、祈りについて、また「主の祈り」を説いた。

参加者は鹿児島市内の六教会すべてから集まった二十二名。中には仕事から直接駆けつけたり、仕事を終えて夜遅く参加する者もあって、一緒にロザリオを唱え講話に耳を傾け、沈黙のうちに路上や聖体の前で祈る姿は真剣そのもの。社会の中でキリスト者として生きる力を願っていた。

黙想の部だけではなく、初日の夕食と交わりの場でも、互いに語り合い、分かち合つて心からの交わりを味わった様子。誘われて参加した求道者の方もラベル修道士もみんなと知り合

ている。午前の部は「カトリック教会の教え」を一緒に読み通して、参加者は三人。午後の部は司祭のほうから教えに

関する問題提起をした。日常生活から出てくる問題を教えるに照らして

考察したりして、参加者は五〜六人。講座に参加できない方のために日曜のミサ後に「カトリック教会の教え」を範囲を決めて五分以内をめどに通読している。これ

平成六年コスモスの咲く頃、十月に発足したことから「コスモス会」と命名された同会では、七十歳以上の信者を対象に教区司祭のためにロザリオの祈りを唱えるなどの活動を続けてきている。

た事を喜んでた。平和を考えるシンポジウムを開催するなど社会に向けた活動を経験した壮年連合会だけに、キリスト者としてのアイデンティティを深める大切さを痛感している様子で、来年春にも黙想会を企画すること。

ゼローム神父の功績を記念誌に

昨年三月に帰天した奄美福祉の父・ゼローム神父の功績を記念誌にまとめる

観光パンフ作製 奄美地区教会

奄美大島地区では以前発行した奄美大島の教会や歴史を紹介する「サンタ・マリアアイランドA M A M I」を内容豊かにし再発行した。今回の同パンフレットには西阿室のマリア観音像やジェロ

ために奄美の信者たちが募金活動を始めた。実行委員会(西決造委員長)によると予定している記念誌はA四版で二百頁。「ゼローム神父ものがたり」やエピソード、奄美での活動を中心にした写真が盛り込まれ

る。委員会では寄付を呼びかけているほか、原稿も募集している。

寄付の振込先は郵便振替口座〇一七六〇一九一三

高年齢者や障害者などが信仰を分かち合いながら安心して生きていける施設の設立と運営を目指すために、日本カトリック看護協会鹿児島支部(支部長 松村精子)や信徒の有志によって高年齢者対策準備室が二〇〇三年四月に設立された。同準備室は、定期的に会合を開いて活動しているが、今年五月から六月にかけて鹿児島市内六教会の六十歳以上の信者を対象に実施した「高年齢者に関するアンケート」の結果をまとめ

た。それによると、八割ほどが日常生活において自立

に近い状態であるが、ミサに自分で行けない人の割合が2割近い。介護保険の認定申請を行っている人はほとんどいないが、カトリック系のデイサービスなどの施設を三割の人が希望していることもわかった。

これらの結果を受けて、同準備室は、今後、毎週のミサへの送迎をはじめ、介護保険や日常生活における相談援助窓口の開設、またデイサービスや有料ホームなどのカトリック施設の実現に向けて検討していく考えである。

教区の高齢者の実態を調査分析

高年齢者や障害者などが信仰を分かち合いながら安心して生きていける施設の設立と運営を目指すために、日本カトリック看護協会鹿児島支部(支部長 松村精子)や信徒の有志によって高年齢者対策準備室が二〇〇三年四月に設立された。同準備室は、定期的に会合を開いて活動しているが、今年五月から六月にかけて鹿児島市内六教会の六十歳以上の信者を対象に実施した「高年齢者に関するアンケート」の結果をまとめ

た。それによると、八割ほどが日常生活において自立に近い状態であるが、ミサに自分で行けない人の割合が2割近い。介護保険の認定申請を行っている人はほとんどいないが、カトリック系のデイサービスなどの施設を三割の人が希望していることもわかった。

これらの結果を受けて、同準備室は、今後、毎週のミサへの送迎をはじめ、介護保険や日常生活における相談援助窓口の開設、またデイサービスや有料ホームなどのカトリック施設の実現に向けて検討していく考えである。

全国の青年やその活動を支援する人たちが集う「ネットワークミティング」(NWM)が九月十八日(土)、十九日(日)に

広島で開かれ交流や活動の情報交換がされた。今回で七回目となったNWMには全国十一教区から約八十人の青年や司祭、修道者が集まり、グループワークや交流会、祈りや広島教区司教によるミサが行われた。鹿児島教区から参加したザビエル教会所属の前田慧君も多くの青年たちと交流し、自分の教会での生活や活動にヒントを得ていた。

また、NWMの運営母体のカトリック青年連絡協議会の運営委員会も開かれた。

NWMと 青年連絡協議会

全国の青年やその活動を支援する人たちが集う「ネットワークミティング」(NWM)が九月十八日(土)、十九日(日)に

広島で開かれ交流や活動の情報交換がされた。今回で七回目となったNWMには全国十一教区から約八十人の青年や司祭、修道者が集まり、グループワークや交流会、祈りや広島教区司教によるミサが行われた。鹿児島教区から参加したザビエル教会所属の前田慧君も多くの青年たちと交流し、自分の教会での生活や活動にヒントを得ていた。

また、NWMの運営母体のカトリック青年連絡協議会の運営委員会も開かれた。

また、NWMの運営母体のカトリック青年連絡協議会の運営委員会も開かれた。

また、NWMの運営母体のカトリック青年連絡協議会の運営委員会も開かれた。



ーム神父やブイジュ神父の紹介が加えられている。また前回同様教会巡り観光のモデルコースが掲載されていて、島を訪れた人に喜ばれている。

費用を積み立てて巡礼実現

浦上教会 上五島を巡る

嘉 尚武

豊臣秀吉の禁教令に始まり、明治の初期まで続いたキリシタン弾圧。迫害を逃れて信徒が隠れ住んだ五



喜びに溢れる浦上教会巡礼団一行

島列島。この島への巡礼話は、ある日曜日、ミサ後のパンコーナーでのこと。ある婦人が「一度五島巡礼に行きたい」ともら

したのが始まりです。それから泉純孝さんが資料を

取り寄せ、去年の九月から旅費の積み立てを始

めました。参加者は美島春雄神父さまと信徒の

十四人。三泊四日の予定で九月

二十七日(月)に出発しました。

五島は奄美大島同様、山、山の連なりで決して恵まれた地形ではありませんが、漁業には適しているようです。

交通手段が発達した現代ならいざ知らず、過酷な環境の中で建てられた教会群。厳密で清楚な佇まいは、厳しい弾圧の中、守り続け

た先人達の信仰の深さがうかがわれます。そして今もなお先人達の心が引き継がれているように思いました。今までの自分の信仰の在り方が問われているようでもあります。

五島の魚料理は実に美味しかったです。予定通り三十日に帰島。神に感謝。添乗員さんご苦労様でした。

R・カンタラメッサ著「キリストにおける生活」サンパウロ二六〇〇円(税別)

書評



編集部からの依頼を受けましたので、この著作を紹介いたします。著者は現教皇

の聴罪司祭であり、世界の各地で黙想会を指導され、また多くの書物を著している有名な方です。今年の八月下旬、浦上教会(長崎)で彼が指導する黙想会(彼の突然の骨折で中止)に合

わせるように、八月の十五日、邦訳が出版されました。神学生時代から自分の信仰上の悩みと疑問を抱え、特にローマ書には親しんできたこと、その内容の素晴らしさに一気に読んでしまいました。この著作は書名のように、キリストを中心に据えるキリスト者の生活がどれほど深い喜びをもたらす生き方であるか、またどれほど人間を根源的に変えるものであるかについて、私に大きな感動を与えてくれました。著者はローマ書の霊的メッセージを伝えながら、キリストの福音の本質をも見事に浮き彫り

「十戒に見入る」作者が感じ取れる。

古仁屋 豊島忠司

「神様をなぜ愛せないか」と言ふ司祭の祈り見し事があり

「司祭の祈り」は深遠な尊さがある。作者の一首も深い祈りの歌であり尊い。

鹿見島 春山マリ子

神様は美と云う花を造られた鮮やかに咲きし楽園の花

「美と云う花」はどこにかく作者自身であって、楽園の礎ともなっている。感謝の心を表現した佳作。

阿久根 中津濱フサエ

ロザリオの祈りのあとに見る茜シスターの声も清しく聞こゆ

「明るいシスターの声」が茜を伴って美しい一首の作品であり、作者の人格が感じられる佳作。

鹿見島 前田儀子

バザーの人形の眼鏡つくりあて何

群雲をかひくぐる月冴ゆる

ザビエルさまの散歩道

カニに拾われて...

船に乗っていたザビエルはある日大風に見舞われていました。今にも転覆しそうな船の上でザビエルは必死に祈り、嵐が収まることを願いながら握り締めた十字架を波に浸しました。しかしその時、手に持っていた十字架を海に落としてしまったのです。一昼夜続いた嵐が収まったあとも、十



字架を失くしてショックを受けていたザビエルは浜辺を歩いていました。すると、きらりと光るものが見えてこちらに近づいて来るではありませんか。よくよくみると、大きなカニがそのはさみにザビエルが落とした十字架をはさんで歩いて来ていた

「福音宣教は難しい。私になんてとてもできっこない」と多くの人が思っているようです。そんな方のために小さな子供とお母さんとの心温まる会話を紹介します。

ナナちゃん「ママ、幼稚園を卒業してS小学校に入学したピカピカの一年生。学校から帰ってきたナナちゃんはお母さんと次のような会話をしました。

ナナちゃん「ママ、学校には十字架のイエスさまもいないよ。マリアさまもいないよ。そしてお祈り時間もないよ。」

お母さん「そう、でも神さまはナナのことをちゃんと見ていて下さるから、心の中でお祈りしようね。」

ナナちゃん「神さまのことを知らないお友だちがいっぱいいるから、神さまのことをお話してあげるね。」

お母さん「...」

ナナちゃん「優れた宣教師になつていきます。」

桃園淳一郎(鴨池教会)

文芸

短歌(思川短歌会作品)

名瀬 林 明子

泣いているだれかが泣いてまわっている
主の足音を願って泣いて

白いゆきまっしろなゆきかなうと
いいな使命のとおり

「主の足音」が聞こえてくる。
作者の信仰は「まっしろなゆき」
のように清純だ。口語短歌の美
しさがある。

大口 森 博伸

みことばをいく度こころに刻みし
かゆれる灯影よロザリオの珠

「ゆれる灯影よロザリオの珠」
で作者の日常が伝わってくる。
ロザリオの名詞止めもよい。

出水 遠竹睦郎

世界的トップスターの共演する神
の十戒に見入る秋の夜

「十戒に見入る」作者が感じ取れる。

「十戒に見入る」作者が感じ取れる。

「雪の峰」は作者の発見でよい。

鹿見島 龍門司真人

木守柿落としてならぬ里の山
名も知らぬ実りも近し花野かな

「雪の峰」は作者の発見でよい。

鹿見島 龍門司真人

木守柿落としてならぬ里の山
名も知らぬ実りも近し花野かな

「雪の峰」は作者の発見でよい。

鹿見島 龍門司真人

木守柿落としてならぬ里の山
名も知らぬ実りも近し花野かな

「雪の峰」は作者の発見でよい。

鹿見島 龍門司真人

木守柿落としてならぬ里の山
名も知らぬ実りも近し花野かな

「雪の峰」は作者の発見でよい。

鹿見島 龍門司真人

木守柿落としてならぬ里の山
名も知らぬ実りも近し花野かな

「雪の峰」は作者の発見でよい。

鹿見島 龍門司真人

木守柿落としてならぬ里の山
名も知らぬ実りも近し花野かな

「雪の峰」は作者の発見でよい。

鹿見島 龍門司真人

木守柿落としてならぬ里の山
名も知らぬ実りも近し花野かな

「雪の峰」は作者の発見でよい。

鹿見島 龍門司真人

木守柿落としてならぬ里の山
名も知らぬ実りも近し花野かな

「雪の峰」は作者の発見でよい。

集いのお知らせ

◇スピリチュアルケア特別
来日講演会 日時:11月9日
(火) 18時30分 かがしま県民
交流センター中ホール
テーマ:「生きる意味」 うつ
の原因 うつからの解放 医療
とスピリチュアリティ
講演者:W・フート&A・フート
夫妻 主催/臨床パストラ
ルケア教育研修センター 連絡
TEL099-282-2926(奥村)・TEL0993-
22-6542(福沢)

◇内観療法ワークショップ
日時:11月6日(土)・7日
(日) 鹿児島県市町村自治会館
テーマ「心理臨床・精神医療に
おける内観療法の有効性」参加
費 一般10,000円/学会員・学
生8,000円(2日間)※1日だけ
の参加は半額 参加希望者は指
宿竹元病院へ電話かファクスで
(☎0993-23-2311☎0993-23-2518)

声